

代わりに山を管理する。 そして木材は誰かのもとへ。

高さ 10メートル以上もある木の根元に、チェーンソーを入れる音。勢よく回転する刃はまたたく間に幹を削り、直径の半分ほどまで来ると手を止めます。「こうしたら、次は逆側から刃を入れて、あとは重機で倒すからよく見てて」見上げた一本の木がギシギシと音を立て、ゆっくりと倒れていく。見学させていただいた私たちは、静かな森林の中、思わず息をのんで見つめていました。

伐採作業には機械を扱う角度と方向、そして木の状態を見極める熟練の技が必要不可欠です。重機を利用して、あっという間にいくつもの丸太が積み重ねられていく様は「カッコいい」の一言に尽きます。

木の持ち主はその山を所有している人ですが、実際に山を管理するのは免許を持った専門家たちです。こうした伐採作業のほかにも、伸びすぎた木の枝を切り落としたり、状態を整えるのも重要な仕事の一つです。伐採された木は種類や大きさごとに出荷されていき、さまざまな形で私たちの生活を支えています。

倒す方向を決め、角度を計算しながら木を切る技術を「伐倒」というそうです。チェーンソーを木に入れていく動きの中にも、磨き抜かれた熟練の技を肌で感じました。(おまたっち)



道具を正しく使うこと。 「けがをしない」を当たり前。

木を切る道具の代表格、チェーンソー。しかし「チェーンソー」と一口に言っても、刃渡りが長く大きいもの、片手で持てる軽いサイズのものなど種類があります。初めて切る大きな丸太に悪戦苦闘の協力隊。持ち上げたチェーンソーの力強い振動に振り回されないよう、足を踏ん張るのが精一杯でした。

このほかにも切断機や薪割り斧など、木材を切って加工するための道具にはさまざまな種類がありますが、すべてに共通するのは「正しい知識で、正しく使う」ということ。少しでも使い方を誤れば、けがや故障の原因になりかねません。人の力だけでは扱いかねる木材も、こうした道具をうまく使うことで、私たちの生活を豊かにする材料となっていくのです。

メタセの杜横の京築ブランド館では、さまざまな種類、大きさ、形の木材がそろい、購入することができます。DIYがお好きな方、これから挑戦してみようかなという方は、ぜひ足を運んでみてくださいね。

無骨そうに見えて、実はとても繊細な機械のチェーンソー。日頃のメンテナンスが欠かせないものだとなりました。もちろん扱うときは、常に安全確認を！(メグ)



地域おこし協力隊通信

特別号



森と生きる人たち。

今回の地域おこし協力隊通信は『豊築森林組合』を特集。
森林組って、何してるの？ 山の仕事って、どんなこと？
合計1か月以上にもわたる体験取材での学びを皆さんにお届けします。

光る、職人の技。一朝一夕では身につけられないこと。

初めて訪れた森林組合の加工場に広がる、木の香り。周囲を濃い緑に囲まれ、聞こえてくるのはさまざまな道具の動く音。何メートルもの木の板を切り出し、あるいは、1センチに満たない調整のための研磨をかける。

ここで働くのは、加工のプロフェッショナルたち。完全オリジナルの製品を作り出す確かな技術と、数ミリ単位で木の性質を見極めるその目は、一朝一夕に身につくものではありません。

そんな中「加工場のエース」と称されるのは、女性職人の城戸さんです。バラバラのパーツをあっという間に組み立てていく様子は、まるで魔法を見ているかのよう。森林組合の未来の担い手として活躍している姿にウットリしました。

協力隊も、加工場の一面を借りて家具作りに挑戦中です。三人三様、自分だけのオリジナル作品を考える楽しさと、難しさを痛感しています。どんなものができ上がるのかは、もう少し先のお楽しみ。インスタグラムや広報での続報をお待ちください！

木を削る、穴を開ける、ビスを打つ。言葉にすると単純そうな動作ですが、当たり前のように設計図どおりに正しくつくる職人さんのすごさを実感しました。(しの)



竹の整備が、木を守ることに繋がっていく。

「問題です。竹は上に伸びていくとある程度で成長を止めますが、根はどうなっているでしょう？」

皆さんは、この答えがわかりますか？ 竹林の真ん中で頭をひねった私たち協力隊は、しばらくああでもない、こうでもない話し合いました。答えは「根は横にどんどん伸びていく」です。森林組合・西部支所にお世話になった私たちは「竹林整備」という新しい事柄を学びました。

近年、増えすぎた竹が隣接する土地に侵入してしまう「荒廃竹林」が目立っているそうです。竹は驚くほど成長が早く、根が横に伸びていくため、ほかの土地に育つ木々や建物に影響を与えてしまいます。そのため、荒廃竹林の密集した古い竹を切り倒し、チップーと呼ばれる粉碎機を使って細かく砕く作業をしています。砕かれた竹は地面へ戻し、やがてタケノコなどが成長するための土へ還っていきます。

増えすぎた竹林をどのように管理していくかは町全体の大きな課題です。木を守り、山を作っていく活動には、こうした一面もあるのだと知りました。

竹の基礎知識や荒廃竹林について学べたことで、竹林をただきれいだと思うだけでなく将来の活用方法も考えるようになりました。(おまたっち)

